

第 43 期第 3 回理事会議事録

日 時：2024 年 8 月 9 日（金）13 時 00 分～16 時 00 分

会 場：日本気象学会事務室（Web 会議方式）

出席理事：青柳曉典, 荒川知子, 猪上華子, 江口菜穂, 榎本 剛, 佐藤正樹, 笹川 悠, 杉本志織, 竹見哲也, 竹村俊彦, 立花義裕, 中村尚, 原田やよい, 早坂忠裕, 堀之内武, 渡部雅浩 以上 16 名（理事総数 20 名）

欠席理事：阿部彩子, 稲津將, 今田由紀子, 三好建正 以上 4 名

出席監事：吉田 聡

欠席監事：川瀬宏明

その他の出席者：勝山 税, 福本昌史, 萬納寺信崇（事務局）

議 題

1. 協議事項

1) 会員の新規加入について

新入会員 86, 退会 9 を全会一致で承認した。2024 年 8 月 6 日現在, 会員数 3,445 名で個人会員は 3,253 名。

2) 第 43 期第 2 回理事会議事録の確認

議事録案について, 全会一致で承認した。

3) 「公益社団法人 日本気象学会 細則」における役員選任候補者選出に係る規定の改定

役員選任候補選出にあたって, 原則として得票数が投票総数の 1/2 以下の立候補者を理事候補者にできないとする部分の改訂について, 2025 年度定時社員総会の議案とすることについて全会一致で承認した。

2. 報告事項

1) WG からの報告

① 大会実施形態の移行に関する WG・・・以下の内容が報告・議論された。

- ・ 第 42 期理事会の下まとめられた今後の大会のあり方の内容（現在の春季大会の機能を JpGU 共催セッションに統合／秋季大会を年次大会と位置付けて期間を長めに開催して適切な講演時間を確保／大会開催の実行委員会は従来の秋季・春季大会担当グループ群を合わせて担当して 1 つのグループの担当頻度を下げる）を踏まえ, WG で検討を行った。この検討結果を以下 1. ～7. のとおり報告し, それについて議論・コメント（✓）があった。

1. 移行スケジュールは 2027 年から全面的に移行。気象学会独自の春季大会は, 2025 年（JAMSTEC 担当）, 2026 年（気象庁担当）で終了。

2. 担当機関の見直しとして、春季大会を担当していた東京グループを2つに再編成し[東京 A(東大理・東大先端研・都立大・極地研), 東京 B(JAMSTEC・横国大・防大)], 気象庁(本庁)は担当無しとする。また、東大 AORI は気象研とグループを組んでつくば A とし、つくば B(筑波大・国立環境研・JAXA・千葉大)を加え、5支部の計9グループでローテーションを組む。例えば、2024 気象研, 2025 九州支部, 2026 関西支部(以上は準備が進んでいるのでそのまま), 2027 つくば B, 2028 中部支部, 2029: 北海道支部, 2030 東京 A, 2031 東北支部, 2032 つくば A, 2033 九州支部, 2034 東京 B, 2035 関西支部, 2036 つくば B, …(以後、繰り返し)
3. 大会の開催時期・期間として、基本的に今まで通り 10~11 月, 大学を活用する場合には 9 月下旬も可。会場は 4 会場, 期間は 4 日半。実情に合わせて柔軟にする。開催曜日は、月曜午後~金曜夕方か、公開シンポジウムを土曜にやる場合は火曜午後開始で土曜終了/公開シンポジウムを日曜にやる場合は日曜開始で木曜終了か。なお、土曜、日曜開催だと予報士会にとってはメリット。
 - ✓ 9 月下旬など開催日程をこれまでよりも早める場合は、予稿締め切りも早め、表彰関連の審査期間を確保することが必要。
4. 口頭発表の時間確保としては、1 件 15 分が望ましい(ただし、会場の確保等と合わせて実行委員会と調整)。口頭発表申し込みが多い場合にはセッションのコンビーナー(座長)による口頭/ポスターの振り分け。口頭発表は 1 件まで。セッションを提案してもらおうが、講演企画委員会が、乱立を防ぐ調整や、足りない分野へ追加提案。シンポジウムと小倉レクチャーを隔年開催。
 - ✓ 口頭発表、ポスター発表の扱い方について、表彰における扱い方との並びも含めて、調整していく必要がある。
 - ✓ セッションを提案型とするなら、固定的内容がない初回の設定が肝要。流行ものだけでなく、地味なものや挑戦的なものも確保するよう留意。
 - ✓ 今後も気象学会単独で行う秋学会もセッション提案型にする理由は、口頭発表時間は 1 件 15 分が望ましいとの要望と、限られた学会期間中に希望される多数の発表数のトレードオフを両立させる対策であるとの補足説明がされた。これに対し、ベテラン・若手研究者も含めた発表希望に対してコンビーナーが口頭/ポスターを振り分けるのは容易でないこと等踏まえ、2026 年の移行期間中に決定させることに囚われず、例えば先着順で口頭発表を決めるなど別案を含め慎重な検討が必要ではないかと意見があった。
5. ポスターセッションは、基本的に対面で実施。口頭発表数の制限によるポ

スターの増加の可能性に向けた会場確保が必要. コアタイムは1時間.

✓ 口頭発表も基本的に現地参加が良い. その方向でWGにてまた検討.

6. 大会行事（表彰式, 受賞記念講演, など）の実施方法として, 春に総会と行事だけ実施（1日限定, 気象庁の講堂を借用, ハイブリッド）. 担当は事務局, 講演企画委員会及び研究連絡会. 学会賞, 正野賞, 岸保・立平賞の表彰式および受賞記念講演, 気象集誌論文賞, SOLA 論文賞の報告を実施. 併せて, 気象庁職員も参加できる内容で研究連絡会主催の研究会を実施. 秋季大会において, 藤原賞, 堀内賞, 山本賞, 小倉奨励賞の表彰式, また, 藤原賞, 堀内賞, 山本賞の受賞記念講演, シンポジウムまたは小倉レクチャーを実施. 研究連絡会がある場合は実施. ジュニアセッションはJpGUで開催.

✓ 受賞記念講演には, 会場に大勢の聴衆がいるなかで行うことが重要. 春・秋学会への振り分けや開催場所など, 更に検討すると良い.

7. 大会参加費は, 現状でも大会のみの収支では黒字であることから, 学会全体の運営, 財政との兼ね合いを考慮. 大会実行委員会の負担軽減のため, 必要に応じて業務委託. 研究費から出せる人はもっと高額でも良い, 気象庁職員への配慮が必要という意見あり. 年ごとに変わるのはいくつか. 協賛金収入に加えて企業向けのセミナー等による収入増の検討. 2025 秋の九州大会では開催日数5日間を確保, 契約が近づいているので早急に確定させる必要あり.

② 2025 年秋季大会（九州支部担当） 大会経費（案）・・・以下の内容が報告・議論された.

- ・ 4.5 日開催/会場 5 日分想定, 発表者は現地参加の条件で見積もり, ハイブリッド開催とするとオンライン対応で約 200 万円増額. これに対応するには大会運営交付金の補填が必要. 9 月の準備委員会で確定した情報で議論し, 10 月本契約としたい. このため, 見積もりの条件にて, 必要経費を補填することを全会一致で承認した.
- ・ 参加費区分は現状どおりで, 参加費は物価上昇も踏まえて検討可能だが, もし値上げするなら総会で説明をするべき. また, オンラインと現地の参加費は同額とすべき.

2) 業務執行理事の報告

① 「庶務」庶務報告(第3回)・・・以下の内容が報告された

・ 掲載許可（1件）

- 1) 申請者: Zhaoxia Pu (Professor, Department of Atmospheric Sciences, University of Utah)

【転載元】: Arakawa, Akio, 1997: Adjustment Mechanisms in Atmospheric Models. J. Meteor. Soc. Japan, 75_1B_155-179.

転載する図：Figure 16 Physical processes in the atmosphere and their interactions.

【転載先】：Essentials of Atmospheric Science, which is tentatively scheduled for publication with Cambridge University Press in December 2024.

・ 後援名義等使用依頼受付（後援：0件, 協賛：3件）

1) 名称：熱中症予防対策に関するシンポジウム

主催：日本ヒートアイランド学会

期日：2024年7月30日

会場：ZoomによるWEB配信

名義：協賛

2) 名称：日本ヒートアイランド学会「第19回全国大会」

主催：日本ヒートアイランド学会

期日：2024年9月27～29日

会場：東京理科大学野田キャンパス（千葉県野田市）

名義：協賛

3) 名称：No. 24-65 講習会「実験流体力学 流体計測の基礎」

主催：一般社団法人 日本機械学会

期日：2024年8月28日

会場：Zoomを利用したオンライン開催

名義：協賛

・ 寄附者リスト（2024. 6. 22～2024. 8. 8）

1) 特定寄附金「気象夏の学校開催支援寄附金」

山下陽介, 名前非公表を希望（1名）, 以上2名 合計15,000円

② 会計担当執行理事・・・以下の内容が報告された

・ 2024年6,7月分の現預金検査

・ 流動資金(運転資金)の月ごとの推移

3) 委員会報告

① 「講演企画」・・・以下の内容が報告された.

・ 2025年秋季大会について, 学会本部交付金の引き上げが望ましい. また, 参加費は2027年度の大会完全移行時に新しい料金体系とするのが望ましい.

・ 2024年度秋季大会に向けた準備状況

・ 2025年度春季大会スケジュール

② 「天気編集」・・・以下の内容が報告された.

・ 2024年7, 8, 9月の掲載記事と, 10月の予定記事.

・ 掲載料免除申請1件

- ③ 「気象集誌編集」・・・以下の内容が報告された。
- ・ Vol. 102, No. 4 (2024年8月)の掲載論文と, Vol. 102 No. 5 (2024年10月)の掲載予定論文. 審査中の論文リスト.
- ④ 「SOLA 編集」・・・以下の内容が報告された。
- ・ 論文投稿・公開状況
 - ・ 特別号企画「豪雨をもたらす停滞性降水系—線状降水帯—研究の新展開」(Vol. 20A)
 - ・ 2024年6~7月の掲載論文: 12編
- ⑤ 「気象研究ノート編集」・・・以下の内容が報告された。
- ・ 今年は残り3~4巻を予定.
- ⑥ 表彰関連・・・以下の内容が報告された。
- ・ 「藤原賞」, 「堀内賞」, 「山本賞」の各候補者推薦委員会より2024年度候補者が提示され, 推薦理由について確認を行った. 受賞者決定のため, 後日に理事による電子投票を行うこととした.
 - ・ 「小倉奨励賞」の候補者推薦委員会より2024年度候補者が提示され, 推薦理由について確認を行った.
 - ・ 「松野賞」は秋学会に向けて作業を進めている.
 - ・ 「部外表彰等」は文部科学大臣賞に向けた推薦を1件した.
- ⑦ 「学術」
- ・ 第43期第1回委員会を9月開催予定. 大型研究の部会4つ, 航空機, 地球観測地球観測衛星, 放射能汚染, データ利用, を基本的に議論していく. 必要があれば, 文部科学省の公募があった時の支援や, 今回まとめた「気象学の現状と展望」のフォローアップをするか検討.
- ⑧ 「教育と普及」・・・以下の内容が報告された。
- ・ 気象サイエンスカフェ, 第2回8月25日(日)「台風のシミュレーションと温暖化」及び第3回10月14日(日)「金星の気象の不思議(仮)」, 開催場所はみなと科学館・オンライン併用.
 - ・ 夏期大学, 7月27日(土)・28日(日)「高温・熱波」, 開催場所は気象庁講堂・オンライン併用.
 - ・ 公開気象講演会, 11月17日(土), 「気象を通じて社会に貢献する」, オンライン開催
- 以下の意見があった。
- ・ 気象学会のジュニアセッションは対象が中高生だが, JpGUは高校生セッション. このため, JpGUに統合した場合には中学生の扱いに検討が必要.
- ⑨ 「国際学術交流」・・・以下の内容が報告された。
- ・ 国際集会への旅費・開催費補助について, 2024年度上半期の応募なし.

- ・ 第4回小倉特別講義, 第4回日中韓気象学会 (ACM) 実施に向けて準備中.
- ・ 気象学会の活動として, グローバルに活躍する在外研究者の新たなネットワークワーキング活動 Japan Network for Atmosphere and Climate Sciences (J-NACS, 仮称), そのためのホームページ作成の初期費用は小倉基金から支出する提案があり, 全会一致で承認した.

⑩ 「人材育成男女共同参画」・・・以下の内容が報告された.

- ・ 第43期第1回委員会を8月7日(水)開催
- ・ JpGU ダイバーシティ推進委員会への委員派遣 (交代)
- ・ 委員会補助金申請書 (2023年5月21日 JpGU 高校生イベントへの派遣委員の交通費・宿泊費, 2024年8月10-12日 女子中高生夏の学校への派遣委員の交通費, 2024年秋季大会ランチョンセミナーでの飲食費請求)
- ・ 女子中高生夏の学校(8/10-12)準備状況
- ・ 秋季大会時のイベント, 施策(保育支援, リクルートブース設置, ランチョンセミナー)

⑪ 「広報委員会」・・・以下の内容が報告された.

- ・ 第43期第1回委員会を8月8日(火)開催した内容 (メンバー一部継続調整中, ホームページに竹見理事長の挨拶掲載を検討, X のアカウント管理/有料プランの検討, グーグルアカウントによる会員管理の改良検討)

4) 理事長報告

なし.

以上について, 議事録を作成し, 理事長および監事が記名押印する.

2024年10月2日

公益社団法人日本気象学会

理事長 竹見哲也

監事 吉田聡